

群 教 セ	F12 - 01
	平25.251集
	小・外国語

# 積極的にコミュニケーション活動を行う 小学校英語科指導の工夫

— ICTの主体的個別活用を通して —

特別研修員 木暮 理人

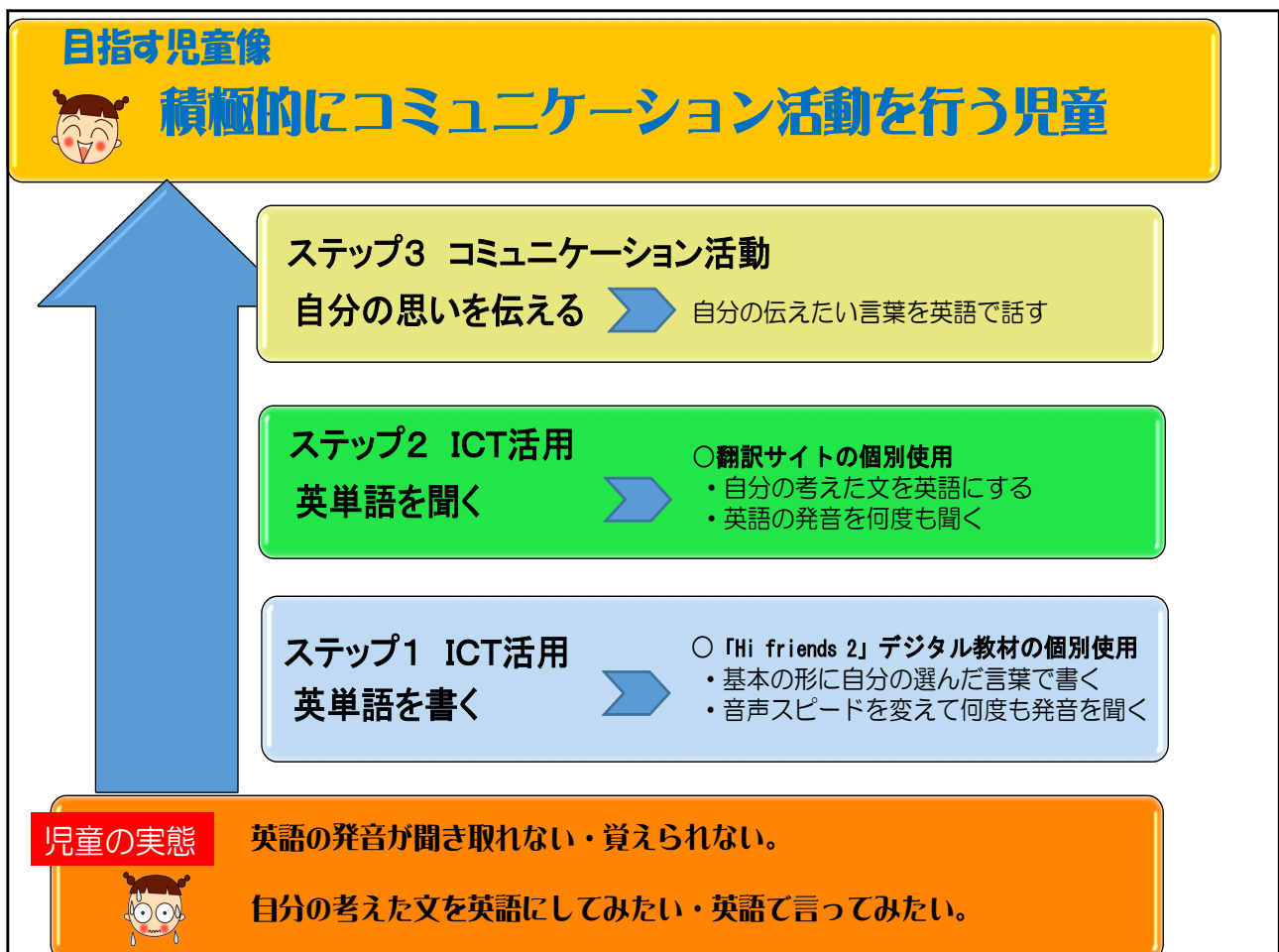
## I 主題設定の理由

本校は、伊勢崎市の指定により小学校英語科の指導に取り組んでいる。児童は、英語を聞いたり、話したりすることに興味をもち、英語科の言語活動に積極的である。しかし、「英語の発音が聞き取れない」「英語が覚えられない」「英語で何をいえば良いのかわからない」という理由から、自分の考えを伝える、発表することに自信をもつことができない児童が多い。

そこで、ICTを活用して児童が基本的な表現や発音を何度も繰り返して聞き、自分の言葉として英単語の理解が深められるようにデジタル教材を個別活用させる。児童がデジタル教材を積極的に活用することによって、基本的な表現や発音、英単語の理解につながり英語で話す意欲を高め、自信をもたせることを目指す。英語に慣れ親しみ、自信をもたせ、自分の思いを伝え合う楽しさを実感できる場面を取り入れることにより、積極的にコミュニケーション活動をおこなうことができると考え本主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手だて

単元「行きたい国を紹介しよう」（6学年・2学期）において、児童が個別にデジタル教材を使用する活動をActivityの中心に位置付け、以下の手だてをもとに授業実践を行った。

### 実践1における研究上の手だて

- ステップ1 「Hi friend! 2」を個別に活用して発音を覚えさせる。  
基本文や国名の発音を繰り返し聞かせる。
- ステップ2 翻訳サイトを活用して英文を作成して、発音を覚える。
- ステップ3 自分で考えた英文をALTに伝えさせる。

本単元は、児童が自分で行きたい国とその理由を英語を使って自分の思いを伝えることをねらいとしている。自分の思いを英文にするために、デジタル教材と翻訳サイトを活用して英文を作成させた。この手だてにより、発音が聞き取れない・分からない英単語の確認を自分のペースで何度もくり返して聞き覚えることができるため、英語で話すことに自信をもたせることができた。また、自分で作成した英文をALTと会話することにより、伝える楽しさを実感させることができた。指導の工夫として、翻訳サイトの活用では、「I want to go to(国名).」と「Because I want to ～」という英文にするために、文例を提示して児童の答えが統一できるようにした。

実践2では、実践1をもとに単元「We are good friends」（2学期）においてデジタル教材の活用とコミュニケーション活動の充実をねらいとして、以下の手だてをもとに授業実践を行った。

### 実践2における研究上の手だて

物語の発表を異学年交流とし、1年生に発表することで意欲を高めた。

- ステップ1 「Hi friend! 2」の「We are good friends」を個別に物語を聞き、言葉の伝え方や感情表現を意識させる。
- ステップ2 翻訳サイトがスムーズに使えるようなワークシートを作成する。
- ステップ3 紙芝居用のケースを用意し、紙芝居をつくらせることで意欲を高めさせる。  
意見交流の時間を設け、特に感情を込めることを指導する。

この単元は、児童が英語を用いて自分の思いを様々な表現で聞いたり、話したりすることをねらいとしている。積極的なコミュニケーション活動を図るために、クラスの発表だけでなく、1年生に発表することを目的にして児童の意欲を高めた。1年生が授業で学習した物語や簡単な物語を題材にし、英語が分からなくてもイメージできるように紙芝居で発表させた。発表する英文は、児童が個々に翻訳サイトを活用して作成した。正しい翻訳をさせるために、長文を単文にさせる等の工夫をさせた。完成した文は担任とALTで正しい翻訳ができているか確認した。クラスの発表会では、各グループの発表を互いに聞き、1年生に伝えるための工夫を行った。グループで意見交流することで、自分の考えや思いを伝え合うことができ、コミュニケーション活動を充実させた。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- ・自分の考えた文章を英文にできるので、英語で話すための意欲を高めることができた。
- ・個別活用で何度も繰り返して英文を聞くことができるので、発音に自信をもたせることができた。
- ・自分で調べて活用する学習となるため、能動的・意欲的な活動にすることができた。

### 2 課題

- ・正しい翻訳や簡単な英文になるように、事前に日本文の型を調べ文例を確認しておく必要がある。
- ・伝え合う活動を取り入れ、感情を込めた発音やジェスチャーのある表現につなげたい。

### 3 提言

- ・個人でデジタル教材や翻訳サイトを活用することにより自分のペースで学習できるため、英文の翻訳や発音に自信をもち、コミュニケーション活動に対して積極的になる。



## ⑥Activityの場面（ICT活用）

### ステップ1

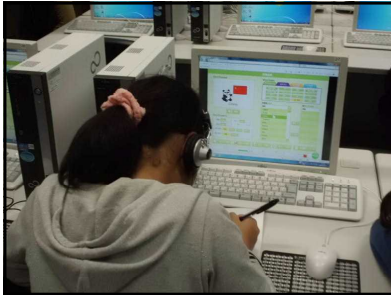


図4 英単語を書く場面

S：フランスは、Hi friendsにあったな。

I want to go to (France.)

S：エッフェル塔という単語は、翻訳サイトを活用してみよう。

エッフェル塔を見たいからです。(日本語打ち) ↓翻訳

**Because I want to see the Eiffel Tower**

S：先生、エッフェル塔のEとTは大文字で書くのですか？

T：そうです。画面にある通り大文字で書こう。

### ステップ2



図5 英単語を聞く場面

S：先生、早すぎて分かりません。

T：何度も何度も聞いてごらん。耳が慣れて、聞き取れるよ。だめなら、ALTに聞き取れないところだけ聞いてみよう。

S：はい。何回か繰り返して聞いてみます。

何度か聞いた後、

S：先生、分かったので、ジャスティン先生に発表してきます。

## ⑦Activityの場面（コミュニケーション活動）

### ステップ3



図6 コミュニケーション活動

A：Hello, S.

S：Hello, Justin.

A：Where do you want to go?

S：I want to go to France.

A：Why?

S：Because I want to see the Eiffel Tower.

A：Good job!

児童は、発音と自分の作成したワークシート（図7）をALTに確認してもらうことで、発表に自信をもった。

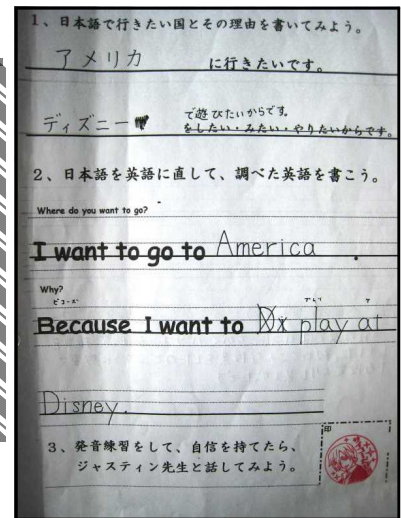


図7 書き込んだワークシート

## 4 考察

- 自分で選んだ言葉を自分のペースで何度も繰り返して聞くことによって、英文をしっかりと覚えさせることができた。
- 繰り返して聞くことにより、発音に自信が付きALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童が多くなった。
- 自分で考えた文章を自分で簡単に英文にできるため、興味をもち楽しく取り組めた。
- ICTを個別に活用することで、児童は自分のペースで学習に取り組めるため学習活動を積極的に行った。
- ICTの個別活用とALTとのコミュニケーション活動が中心となったため、児童同士のコミュニケーション活動が図れなかった。お互いの思いを伝えられるような学習活動に改善を図ることが今後の課題である。



## 実践 2

### 1 単元名 「We are good friends」(第6学年・2学期)

### 2 本単元及び本時について

本単元は、積極的に英語で物語の内容を伝えたり、まとまった英語の話を聞いて内容が分かり、場面にあったセリフを話して英語に親しむものである。本時は、全6時間計画の第5時間目にあたり、児童が作成した英文の様々な表現を聞いたり話したりすることがねらいである。英文への翻訳は、第4時間目までを中心にして行い、各グループが翻訳まで完成している。実践1で翻訳サイトを活用しているため、日本語を英文にする作業はスムーズに行えた。

自分の思いを英語で伝え、積極的なコミュニケーションを図るために、次のような手だてで実践した。

### 3 授業の実際

#### ①めあての確認をする。

自分が話す英語の台詞に感情をのせよう

#### ②Activityの場面(ICT活用)

発表する物語の担当の文章を翻訳サイトに入力し、発音を繰り返し聞かせ確認させる。文章が長いもの、英文を覚えることに時間がかかる児童については、発音をカタカナでメモさせた(図8)。

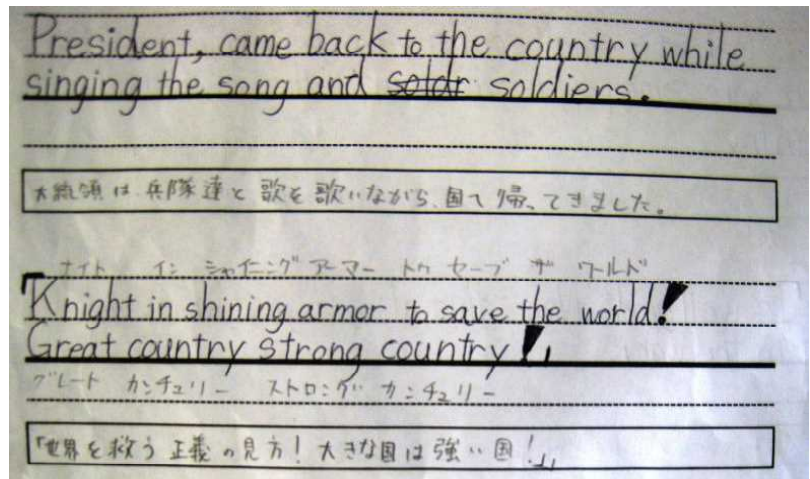


図8 前時までに書き込んだワークシート

#### ステップ1・2

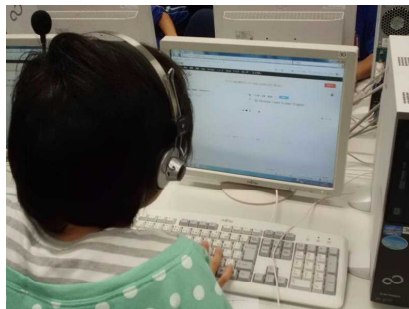


図9 英単語を聞く場面

S: 今日のセリフをもう一度、パソコンで聞いて確認しておこう。

「さあ、泳ぐぞ」→「Come on, swim !」

S: 「Come on, swim !」

これは、もう大丈夫。次の言葉を確認しておこう。

「しばらく行くと、学校の屋根が見えてきました。」↓

「If you go for a while, the roof of school was able to see.」

S: やっぱり、発音が聞き取れないな。先生に聞いてみよう。

#### ③Activityの場面(コミュニケーション活動)



図10 発表の場面1

S1: 「Reach the sky, one two three.」

S2: 今の読み方だと勢いがいいよ。

S3: それと、ジャンプする感じをだしたら面白いかもよ。

S4: じゃあ、僕がとなりでジャンプするから、S1が勢いよく読んでみて。

S5: それ、いいかも。やって。やって。

S1: わかった。じゃあ、やってみよう。

「Reach the sky, one two three.」

(S4 手を大きく振る)

S5: 今のA1とA2のタイミングよかったね。

S2: そうだね。S1の言い方が力強くなったよ。

6グループを三つに分けて、作成した物語をお互いに伝え合い、言葉の伝え方や感情表現を中心として活発な意見交流を行わせ、感情を込める工夫をさせた。

紙芝居を紙芝居用のケースに入れて発表させて、実際の発表と同じような雰囲気を感じさせた。担任とALTは分担して各グループの発表を確認し、表現の工夫について指導した。



図11 発表の場面2

S1: さっきの班に「天までとどけ、1・2・3」を勢いよく言うように言われたので、そこをよく聞いて下さい。  
 ~話を読んでいき~  
 S1: 「Reach the sky!, one two three.」  
 ~話が終わり~  
 S2: S1君の気にしていた点はよくなっていたと思うけど。  
 S3: 同じです。  
 S4: 僕は、one two threeをだんだん大きな声にするといいか  
 なと思いました。  
 S3: 確かに。それがいいかも。  
 S1: わかった。じゃあ、言ってみるよ。  
 「Reach the sky!, one two three.」 どうか?  
 S4: よくなったと思うよ。  
 S1: そうかな。じゃあ、今みたいな言い方に変えるよ。

2回の発表により、各グループが互いの発表で表現を工夫する部分を積極的に意見交流できた。

#### ④1年生との交流活動（コミュニケーション活動）

後日、1年生との交流会では、クラスで練習した成果を各グループが発揮した。

児童たちは、グループで作成した紙芝居を見せながら、それぞれの分担された英文を自信をもって発表した。



図12 交流会の様子1



図13 交流会の様子2

## 4 考察

- ICTを個別活用することにより、自分のペースで何度も繰り返して英文を聞くことができるので発音をしっかりと覚えられ、児童は自信をもって発表することができた。
- お互いの作品を発表し伝え合うことにより、感情を込めた表現の方法を考えさせることができた（図14）。
- グループの意見交流によって、自分なりの表現方法を工夫して行う児童が増えた（図15）。
- 翻訳ソフトの英文が、こちらの意図する文章でない場合があるので、教師やALTが確認をしなければならない。

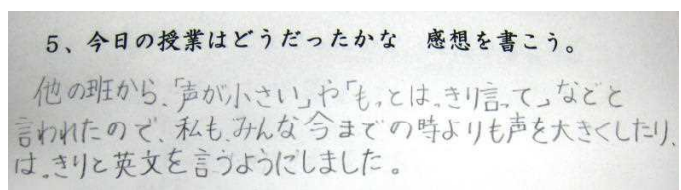


図14 授業の感想

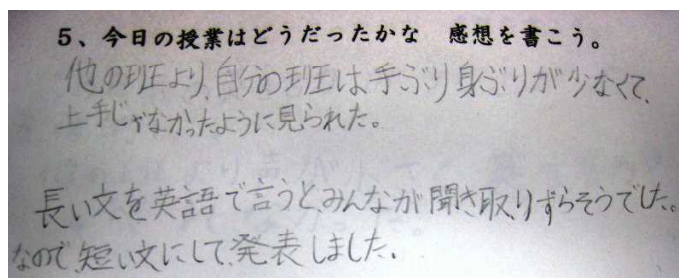


図15 授業の感想